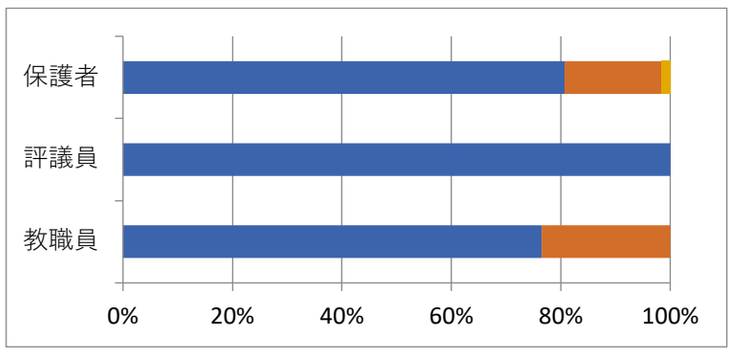
令和６年度　学　校　評　価　　（隈庄幼稚園）

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　わからない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

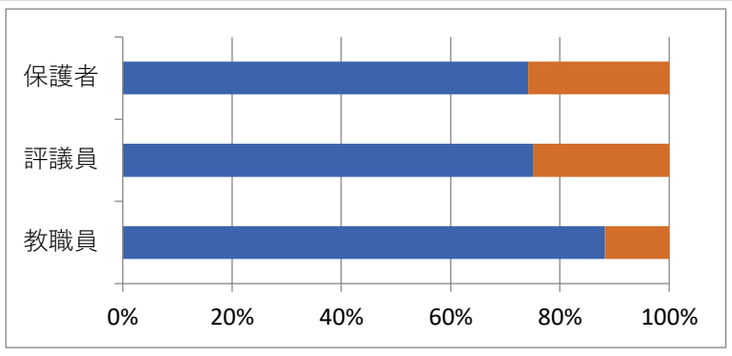
１豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

幼稚園は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に取り組んでいると思いますか。
（感動・感謝する心、いのちを大切にする心、基本的生活習慣、体を動かす心地よさなど）



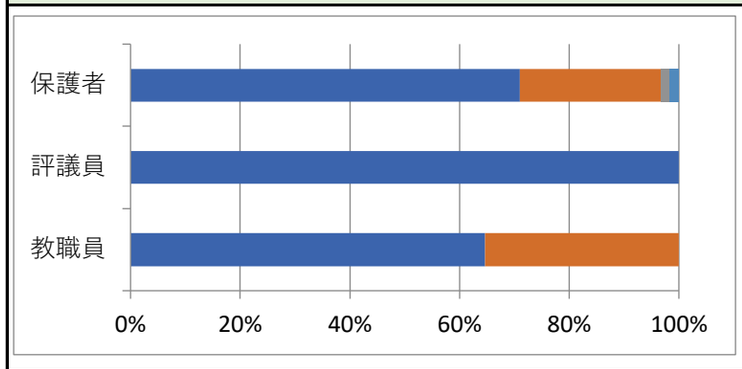
２社会の形成持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育

幼稚園は、園生活をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に取り組んでいると思いますか。（こども同士の話し合い、自然体験、地域の方との交流活動など）

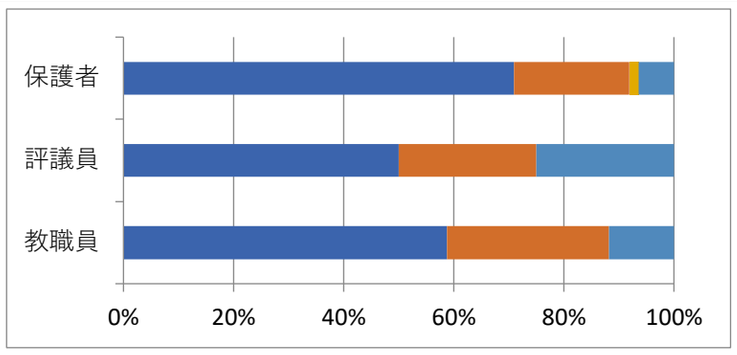


３４遊びを通して創造的な思考や主体的に行動する力を育む幼児教育の推進☒

こどもは、自分の思いを表現し、意欲的に活動していると思いますか。



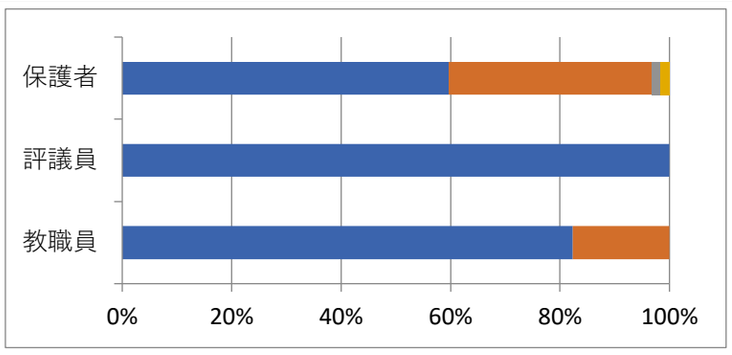
幼稚園は、幼小中連携の推進を行っていると思いますか。（職員同士の連携、こども同士の交流など）



（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

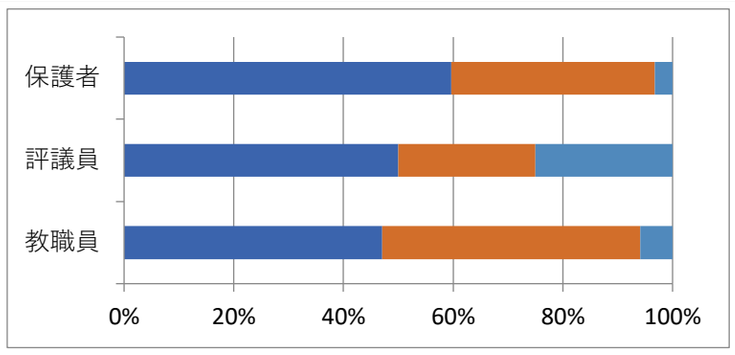
5 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

幼稚園には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



6 インクルーシブ☒育の推進

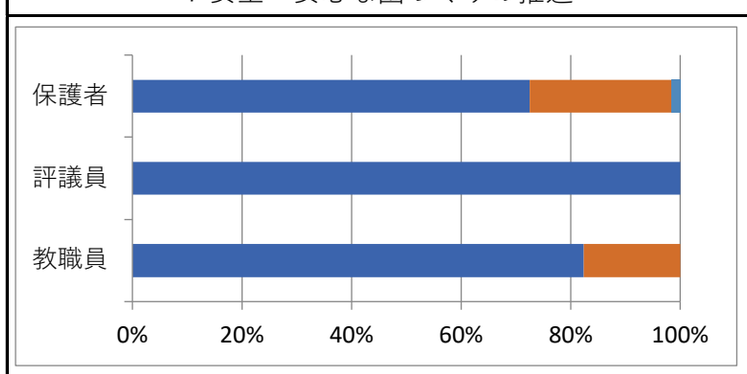
幼稚園では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。



（３）最適な教育環境の整備

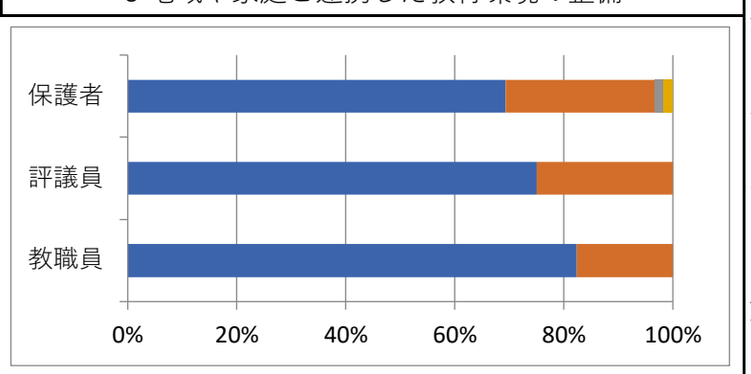
幼稚園は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。

7 安全・安心な園づくりの推進



幼稚園は、地域や家庭の人と協力して、保育や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

8 地域や家庭と連携した教育環境の整備



考察

園の重点目標の一つに、「基本的生活習慣を身に付け、健康で安全な生活を心がける子どもを育てる」とし、子どもに生活のめあてを示しながら日々取り組んできた。また、日頃から積極的な外遊びの中で、チャレンジしてできるようになるうれしさや充実感を味わえる保育、SDGsの視点を取り組んだ研究の中で、地域との交流、自然体験の充実、ものを大切に使おうとする態度を育む保育を工夫し、活動の振り返りを子どもと共に行いながら遊びの深まりを大切にしたことで、両項目共に９８％以上の評価を得ることができた。

主体的に遊びに取り組むことで、自分の思いを出し、自分らしさを存分に発揮できるよう、環境構成や援助の在り方を工夫すると共に、個に応じた対応も大切にしてきた。子どもたちは思い切り遊ぶことで、心が開放され、自分の思いを出せる子どもが多いと感じる。保護者の評価も９６％以上であった。幼小中連携においては、年長組と小学校との交流活動が増え、継続できたことはよかった。

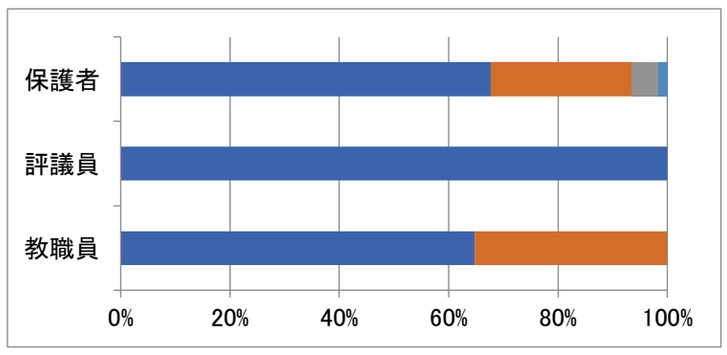
子ども一人一人を大切にする保育を心がけ、子どもの思いに寄り添いながら幼児理解に努めてきた。また、教師間の報告、連絡、相談を密にし、課題に対しては、担任が一人で悩まず、全職員でよりよい援助の在り方を探ってきたことで、互いに温かく接することができたと思われる。このような教師の姿勢が子どもにも伝わり、思いやりのある行動につながっている。保護者の評価も９６％の高い評価であった。

今年も努力事項に「整理整頓された美しい環境つくり」を掲げて実践に取り組んだ。安全点検後の処置について記録表を作成、管理しやすくしたことで職員の安全意識も高まった。後援会からは、園外保育の見守り、駐車場や周辺道路利用等で多くの協力を得た。役員会で、園行事や課題について保護者と相談しながら園運営を進め、全体会で報告してきたことで、園教育への理解や協力の意識も高く、９６％以上と評価も高かったと思われる。後援会行事「くまっこの日」もアイデアに富んだ楽しい内容で特に年長児にとっては互恵性のある活動となった。

（４）こどものいのちと権利の擁護

９ こどもの最善の利益を守る環境づくり

幼稚園は、こどもの思いを尊重するとともに、保護者が相談しやすい園づくりに取り組んでいると思いますか。

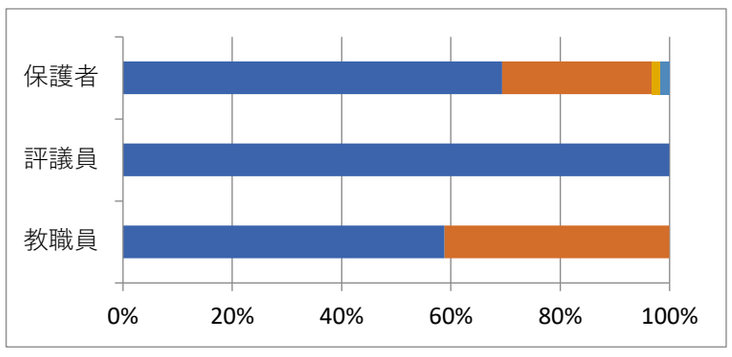


幼児理解に基づいた日々の保育を工夫し、子どもや保護者の思いに寄り添う姿勢を大切にしてきた。個人懇談、学級懇談、降園時を利用した連絡等の保護者との連携の場を多く持ってきたことは、９３％の保護者にとっては担任、園に、話や相談をしやすい環境であったと思われる。今後「どちらかといえばそう思わない」と回答した人の思いにも寄り添える関わり方を見つけていきたい。

独自項目

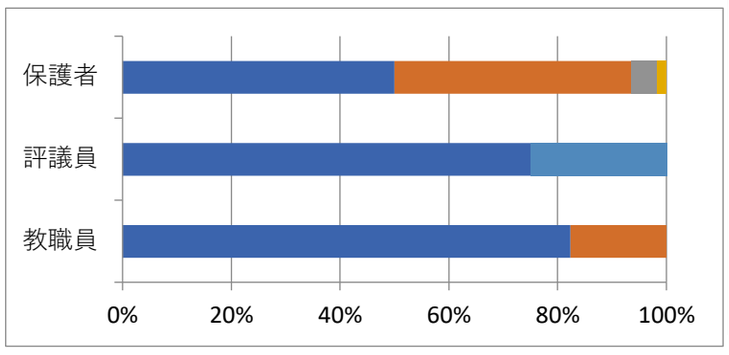
独自項目1

幼稚園は、人への思いやり環境への思いやりをもつこどもを育てていると思いますか。



独自項目2

幼稚園は、こどもの意欲を高めるための環境構成を行い、教材の充実を図っていると思いますか。



今年も「思いやり」に関する研究を進め、各クラス研究保育も行ってきた。その中で、環境による教育の重要性や、教材の充実について議論をし、年齢に応じた環境構成について考え、取り組んできたことで、保護者からは、９３％以上の評価を得た。特に項目２は日々の粘り強い努力と工夫が必要となるため、これからも質の高い保育を目指して精進していきたい。

来年度の具体的な取組について

〇子どもが主体性を存分に発揮できる保育を行うにあたり、保育研究においても、教師の主体性を発揮できる環境づくりを目指す。そのため、長年取り組んできた研究テーマを見直し、実態や課題にさらに具体的に迫ったテーマと内容で研究を進め、モデル園としての研究発表に取り組む。
〇幼保小中連携においては、幼児教育の発信について動画配信も含め工夫してきたが、教育内容やカリキュラムに迫る連携接続は難しかったので、検討が必要である。
〇家庭や地域との連携も引き続き大切にしていく。特に、日頃からの家庭との連携は、日々の保育に欠かせないことであることから、毎日の送迎時の連携はもちろん、役員会を中心に、保護者との対話を十分に行いながら園教育の充実に努めていく。

幼稚園関係者評価

・学校評価の全体的評価は、どれも良好で保護者の理解が得られていると感じる。少数の厳しい意見はあると思われるが、園の目指している思いを聞く場があれば、変わっていくのではないか。保護者全体会の持ち方を工夫し、どんどん発信していく必要があると思われる。事前アピールを後援会役員と共に行い、積極的な参加を促すなどするとよいのではないか。
・幼小中連携については、子どもの学びの連続性を保証するうえで、理論的連携と行動的連携が必要であると感じる。
・幼児理解の観点でいうと、公立幼稚園はとても頑張っていると思う。当たり前のようだが、外ではそうではないと感じることもあるので、今後も子どもの思いを受け止める保育、質の高い保育を継続してほしい。